

調査概要

- **調査テーマ** 【子ども調査】子どもの生活と学習に関する意識と実態
【保護者調査】保護者の子育て・教育に対する意識と実態
※第1回は「生活」、第2回は「学習」について詳しく尋ねている。
- **調査時期** 第1回：2015年7～8月、第2回：2016年7～8月
- **調査方法** 第1回：郵送およびインターネットによる自記式質問紙調査 ※回答者がいずれかの方法を選択。
第2回：郵送による自記式質問紙調査
- **調査対象** 全国の小学1年生から高校3年生の子どもとその保護者 ※小学1～3年生は保護者が回答。

学年	子ども						保護者					
	第1回 (2015年) 子ども 2015		第2回 (2016年) 子ども 2016		パネルデータ 子ども 2015-2016		第1回 (2015年) 保護者 2015		第2回 (2016年) 保護者 2016		パネルデータ 保護者 2015-2016	
小学1年生	—	—	—	—	—	—	1,755	4,707 (85.5%)	1,853	4,923 (87.6%)	—	—
小学2年生	—	—	—	—	—	—	1,434	4,707 (85.5%)	1,668	4,923 (87.6%)	1,585	2,872
小学3年生	—	—	—	—	—	—	1,510	4,707 (85.5%)	1,398	4,923 (87.6%)	1,287	[90.1%]
小学4年生	1,345	—	1,357	—	—	—	1,345	—	1,364	—	1,244	—
小学5年生	1,292	3,972 (78.2%)	1,245	3,823 (73.0%)	1,131	2,248	1,293	3,975 (78.2%)	1,247	3,863 (73.8%)	1,133	3,498 [84.3%]
小学6年生	1,335	—	1,221	—	1,117	[85.2%]	1,336	—	1,224	—	1,121	—
中学1年生	1,343	—	1,178	—	1,100	—	1,351	—	1,177	—	1,099	—
中学2年生	1,366	4,091 (76.1%)	1,255	3,730 (71.4%)	1,130	3,384 [83.7%]	1,384	4,130 (76.8%)	1,260	3,750 (71.8%)	1,140	3,400 [83.5%]
中学3年生	1,381	—	1,297	—	1,154	—	1,393	—	1,297	—	1,161	—
高校1年生	1,267	—	1,195	—	1,078	—	1,287	—	1,196	—	1,083	—
高校2年生	1,291	3,919 (69.9%)	1,115	3,461 (64.0%)	985	3,090 [78.4%]	1,302	3,964 (70.7%)	1,115	3,477 (64.3%)	991	3,102 [77.9%]
高校3年生	1,360	—	1,144	—	1,027	—	1,374	—	1,143	—	1,028	—

- ※第1回、第2回とも、本研究プロジェクトの「調査モニター（小学1年生から高校3年生の子どもとその保護者）」全員に調査票を配布した。第1回の「調査モニター」は21,569組、第2回の「調査モニター」は21,485組。
- ※第1回(2015年)、第2回(2016年)の数値は、各回の有効回収数。()内は有効回収率。
- ※パネルデータの数値は、第1回(2015年)と第2回(2016年)の両方に回答した有効回収数(2016年の学年)。「[]」内は第1回到答した人に占める第2回到答した人の比率(継続率)。
- ※学年別の有効回収数は、3学年ごと(パネルデータでは一部2学年ごと)の有効回収数のうち学年が特定できている回答の数。

● パネルデータについて

本速報版では、第1回(2015年)と第2回(2016年)の両方に回答した子ども(あるいは保護者)の回答を「パネルデータ」として分析している。「パネルデータ」では、子ども(あるいは保護者)1人ひとりについて、1年前(2015年)の回答と現在(2016年)の回答を比べ、その変化をみることができる。**子ども 2015-2016**は子どものパネルデータ、**保護者 2015-2016**は保護者のパネルデータを示している。

● 単年データについて

本文中の**子ども 2015**は第1回(2015年)の子どもの回答、**子ども 2016**は第2回(2016年)の子どもの回答、**保護者 2015**は第1回(2015年)の保護者の回答、**保護者 2016**は第2回(2016年)の保護者の回答を示している。

● データを読む際の注意点

- ①本文中では、小学4年生を「小4生」のように表記している。また、中学1～3年生を「中学生」、高校1～3年生を「高校生」と表記している。
- ②本速報版では、勉強が「あまり好きではない」「まったく好きではない」を勉強が「嫌い」と示している。
- ③図表で使用している百分率(%)は、小数点第2位を四捨五入して算出している。そのため、四捨五入の結果、数値の和が100.0にならない場合がある。

親子パネル調査から見えてきたこと

この速報版では、同一の子どもと保護者を2年間追跡することで、勉強が「嫌いから好き」になった子どもの特徴を明らかにし、学習意欲と自ら学ぶ力の獲得との関連性について分析と考察を加えた。主な結果は、以下の2点である。

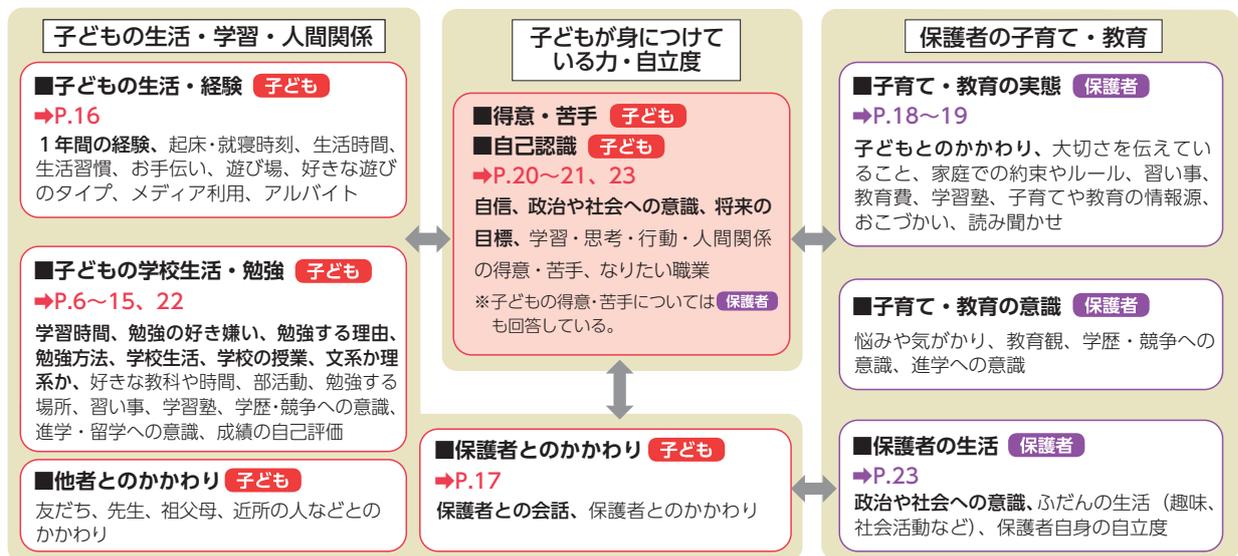
- 1) 学年が上がるにつれ、勉強が「好きから嫌い」になる子どもが多いなか、勉強が「嫌いから好き」になった子どもも1割前後いる。かつ、この子たちは学習時間が伸び、成績も上昇している。
- 2) 勉強が「嫌いから好き」になった子どもは「嫌いなまま」の子どもに比べ、内発的動機づけが高く、さまざまな動機づけで学習し、また学習方略を多く活用している。

今後この親子パネル調査を継続することで、自ら学ぶ力を獲得する子どもの学びのプロセスや保護者のかかわりの影響についての分析をさらに深めていきたい。

* 「主体的な学び」はベネッセ教育総合研究所「小中学生の学びに関する実態調査」で示した教育心理学の「自己調整学習」理論に基づき、作成した学習モデル (http://berd.benesse.jp/up_images/research/Survey-on-learning_ALL.pdf)

調査設計

「子どもの生活・学習・人間関係」の意識・実態や「保護者の子育て・教育」の意識・実態が、「子どもが身につけている力」や「自立」の程度とどのように関連しているのか、また、それらが高校卒業時点での「自立」にどのようにつながっていくのかを明らかにできる設計である。



※上記以外に、子どもの属性、保護者の属性に関する項目を尋ねている。 ※本速報版に掲載している項目を太字で示している。

基本属性

●子どもの性別(学校段階別)

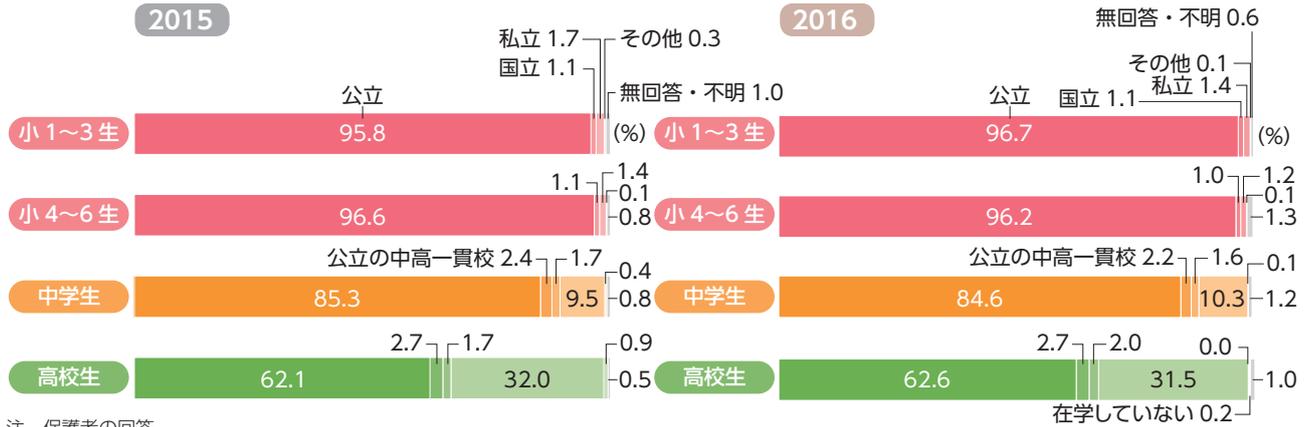


注1 小1~3生は保護者の回答。

注2 2015-2016 は2016年の学年。

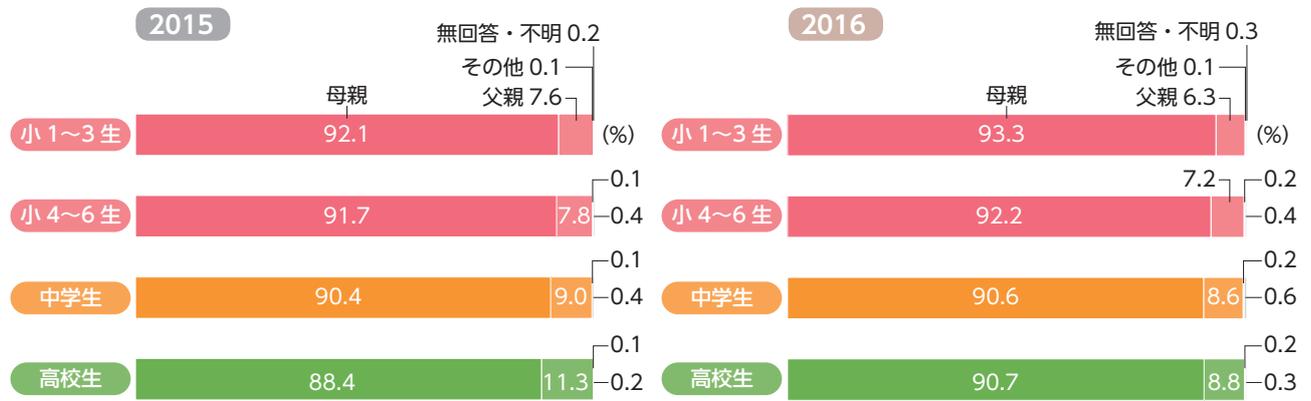
基本属性

●子どもが通っている学校の種類(学校段階別)



注 保護者の回答。

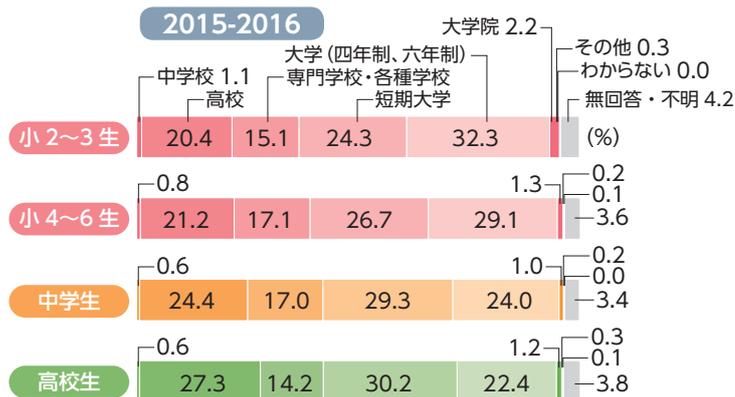
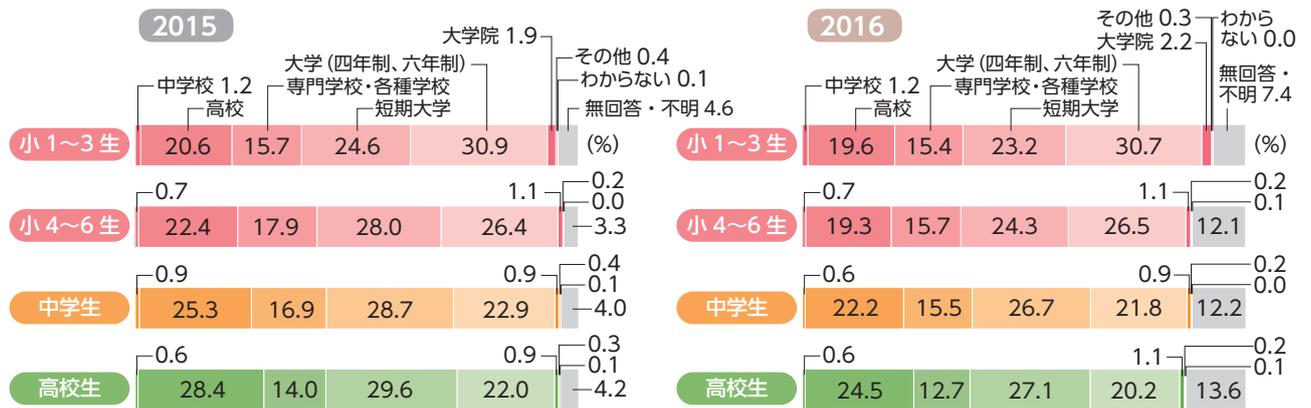
●保護者(回答者)と子どもとの続柄(学校段階別)



注1 「その他」は「祖母」+「祖父」+「その他」の%。

注2 保護者の回答。

●母親の最終学歴(学校段階別)



注1 調査初回の保護者本人と配偶者についての回答をもとに作成。2015 2016 は各時点で母親がいる場合を、2015-2016 は調査時点のいずれも母親がいる場合を集計対象としている。

注2 2015-2016 は2016年の学年。